

1 単元名 「地域を知り、地域を知ってもらうために」

2 単元の目標

- 中萩地区の地域を知り、地域の一員として、地域との繋がり大切さについて理解することができる。(知識及び技能)
- 地域の活動を通して地域の良さを知り、中萩中学校の伝統を知ってもらうためにできることを考えることができる。(思考力・判断力・表現力)
- 地域の未来について、地域の様々な方と交流しながら考え、行動に移すことができる。(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本校は公民館の活動やまちづくり運営協議会が企画・運営する活動に参加させてもらうことで、地域を知り、地域の一員として活動することができている。内容も小学生の活動の手伝いや地区で行うお弁当の配布の手伝い、防災訓練の参加など様々な活動があり、充実している。その一方で、生徒が主体となって地域の方と活動をしたり、地域の方に本校を知ってもらったりする機会は少なく、地域と学校の結び付きをより強くするために中学校の情報を発信し、相互の関係を築いていくことは地域協働のきっかけとなる。

(2) 生徒観

本校の生徒は、素直で前向きな生徒が多く、学校行事や日々の生活をお互いで助け合いながら生活することができている。総合的な学習の時間のものづくり体験や職場体験学習を通して、自分たちの地域の良さを再確認するとともに、将来、地域の一員として働きたいと考えている生徒も多い。その一方で行動に移す力が弱く、地域の活動に参加することは多いものの学校主体、生徒主体で地域と交流する機会は少ないように感じる。地域の取り組みや課題を自分事として捉え、使命感を感じながら活動する力が必要であると考えられる。

(3) 指導観

本単元の指導に当たってまずは、校区のボランティア活動に積極的に参加し、その中で地域の良さや地域と中学校が相互的に結びつくことができる方法を考える。

今回は本校が継続的に行っている空き缶壁画アートを使って地域の方に協力をお願いするとともに中萩中学校を知ってもらい、地域の資源を継続的かつ無駄なく使う方法を考えていく。生徒は学校内の活動でのリーダーシップ、多様な人との協働を通して責任感やコミュニケーション能力の育成を図る。

そして、今年度活動してきたことを振り返り、来年度に繋げていくとともに、自分たちの活動が地域への貢献や地域と学校の繋がりのかきかけになることを体感させたい。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

- ・ 多様性…地域の方々、保護者、生徒の思いは多様であり、様々な考えやそれぞれにできることを基に活動を考える。
- ・ 相互性…現在の中萩校区の子どもは、はぎっ子てん、運営協議会、公民館など多くの方にお世話になっている。今後は自分たちで主体的に安心安全な校区にしていくために、地域に対して主体的に活動することが持続可能なまちづくりになること。
- ・ 公平性…中学生になり横のつながりは多いが、異年齢での縦のつながりは薄い。持続的に地域を盛り上げていくために、活動が1回で終わるのではなく、繋がっていけるよう活動が必要であること。
- ・ 連携性…地域の方が中心になって地域を盛り上げている現状であるが中学生が主体的に活動を行い、地域の人を巻き込んでいく活動が必要である。
- ・ 責任性…自分たちで目標を設定し、チームで協力しながら責任を持って課題を遂行する責任、下級生や後輩に伝えていく責任がある。

・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

批判的に考える力

今現在の地域活動から中学生の視点で見直し、地域に必要なことや地域と学校を結び付けるための方法を考える。

未来像を予測して計画する力

活動を通して、まだ見えない未来を予想し、よりよい未来像の実現に向けて自分たちにできることを考える。

多面的・総合的に考える力

地域の方は、さまざまな立場の方がおり、それぞれ安心安全に生活を送ろうとしている。さまざまな角度から考える。

つながりを尊重する態度

同世代の仲間はもちろん、異世代との交流やさまざまな立場の人とコミュニケーションをとり、繋がり新たな仲間を増やしていく。

進んで参加する態度

自分から行動することで周りが変化し、様々な人の心を動かし、それが地域を支える力となる。自分の行動が地域を動かす原動力になることを理解する。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間・世代内の公正

これまで引き継がれてきてことを次の世代に少しでも良い形で引き継ぐこと。

自然環境、生態系の保全

そのまま廃棄されてしまう地域の空き缶を空き缶壁画アートという形で再利用することが環境問

題の解決に適していること。また、使用後のアルミ缶を再生利用することでアルミニウムの有用性を理解する。

人権・文化を尊重

地域の人を知り、認め、安心安全なまちづくりを継続して行うことが、持続可能な社会の実現に繋がる。

・ 達成が期待される SDGs

- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう

4 単元の評価規準

ア 知識及び技能	イ 思考力・判断力・表現力	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 中萩校区のボランティア活動に参加する中で、現状を理解し、地域行事の意義について理解している。 ② 調べたり、学んだりして得た知識を目的に応じて言葉や写真を関連付けながらまとめる技能を身に付けている。	① これからの地域の発展の在り方についてブラッシュアップしながら対話を重ね、考え、適切に判断している。 ② 地域について学んだことから、自分たちが伝えたいこと、行動することを整理し、表現している。	地域貢献のために、中学生である自分たちが持続可能な社会の担い手であるという自覚を持ち、仲間や地域の方々と連携し、地域の課題解決のために失敗を重ねながらも行動しようとしている。

5 単元の全体計画（全10時間）

時間	学習活動 (予想される生徒の発言や答え)	学習への支援	評価(△) 備考(・)
1 2	○ はぎっこテンや公民館のお弁当配布などのボランティア活動に参加する。 ・ 地域のことを知ることができた。 ・ 自分たちができることを考えたい。	・ 地域の方の指示の下ボランティア活動に参加する。 ・ 地域の良さや多様な他者との交流を大切にする。	ア① ウ
3	○ ボランティア活動を通して気付いたことを話し合う。 ・ 自分たちでもできることをしていきたい ・ 地域行事ででるごみの削減 ・ 学校行事と繋げることができたら、中萩中学校のことも知ってもらえる。	・ 地域に触れ、今の自分たちにできることを考える。	ア① イ②

4 5	○ 空き缶壁画アートの準備・計画を行う。 ・運動会の時に外に回収ボックスを用意し、協力してもらう。 ・お祭り期間など空き缶が出やすい時期に公民館に協力をしてもらう。	・PTA や公民館の方にも協力してもらい様々な人と協働することの大切さを理解することができる。 ・協力をしてもらうための方法を考える。	ア① イ①②
6 7	○ 空き缶壁画アートを実行する。 ・スムーズに行うために学校内でボランティア活動を行い、生徒会役員が主体となって事前準備を行う。 ・3学年が交流しながら作成することで、1、2年生が作業を理解し、来年度に繋げていく。	・学校のリーダーをなって主体的に活動し、指導的な立場で活躍できるように自覚を持たせる。	ウ
8	○ 協力してくださった公民館にお礼状をつくる。 ・これからも継続していきたいことも書く。 ・中学校の活動を知ってもらう。	・中学校のことを知ってもらうこと、今回の取り組みを継続していくことが相互にとってどのような影響があるを考える。	イ①② ウ
9 10	○ 1年間の活動の振り返り、次年度への提案 ・地域が良い形で続くために今後も自分たちでできることをしていきたい。 ・地域に学校のことを知ってもらう機会を増やす。	・1年間を通して生徒会として地域貢献への課題と成果を全体で出させる。 ・持続可能な取組であるかを考える。	イ① ウ